

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

# りべら

2014.2

131

号

りべら

2014.2

131

号

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

## 特集:子どもと環境学習

身近な自然で遊ぼう!—幼児を対象とした自然体験の場づくり—

「森のようちえん」の紹介 今村光章…3

復興まちづくりの現場…4

親子で楽しむ淀川のハゼ釣り…5

空気のごれを調べてみよう!…6

廃油キャンドルナイトin NY(にしよどがわ)開催…7

御幣島芸術祭(みてアート2013)開催…8

大阪城まで自転車で行こう!…9

忙中一筆 多田 修さん…10

西淀川記憶あつめ隊:平木福男さん、寿美子さん…11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり 地元に行く大和田の店…12

町工場の夕日~御幣島のひなやん編~第2回…12

あおぞら広場…14

西淀公園でめかくしトレイル。感覚をときます。(13.11.20)



池田市で開催した「2013池田市サイクル&エコカーニバル」でチャリンコチャンピオン実施。自転車の正しい乗り方や交通ルールを学ぶプログラムです。60人が体験しました。(2013.11.3)



新潟市万代市民会館で「わくわく広げよう公害資料館の“わ”—公害資料館連携フォーラムin新潟」を開催しました。全国から94名の参加がありました。(2013.12.7-8)



あおぞら  
フォトギャラリー



西淀川図書館に『にしよど環境・まちづくり情報コーナー』できました。協力あおぞら財団です。『親子で楽しむよどがわのハゼ釣り写真展(撮影:藤井克己さん)』を開催(2013.11.21~2014.1.23)



お知らせ

【あおぞら財団主催】

●医療従事者向け  
ぜん息・COPD患者の  
呼吸リハビリテーション講習会

日時:2月15日(土) 13:00~16:30 受付12:30~

会場:西淀病院リハビリ室

講師:金尾顕郎氏

(森ノ宮医療大学教授、大阪呼吸ケア研究会世話人)

【あおぞら財団主催】

●手づくりせっけん教室

日時:4月4日(金) 10:00~12:00

会場:あおぞらビル3階

グリーンルーム

費用:初めての方2400円、

2回目以降の方は1800円

(材料費込)



ビルあおぞら

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。

午前:1,000円/午後:1,300円/夜間:1,300円/全日:3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

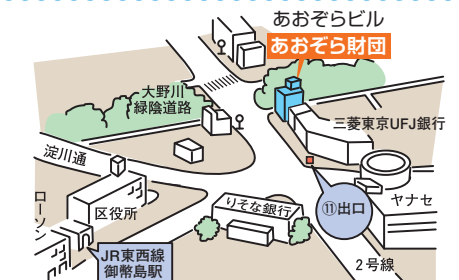
開館日 月曜日と金曜日(10:00~17:00)/要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ



あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978~1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階(TEL)06-6475-8885 (FAX)06-6478-5885 電子メール:webmaster@aozora.or.jp http://aozora.or.jp/



- JR東西線御幣島駅①出口すぐ
- 阪神電車姫島駅より徒歩10分
- JR神戸線塚本駅より徒歩15分



会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙などをお送りします。

【年会費】個人:年一口5,000円、

学生:年一口2,000円、

法人・団体:年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

\*郵便振替口座 00960-9-124893

加入者名:あおぞら財団

\*三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店

普通 3764689 口座名義:あおぞら

財団賛助会員

りそな銀行の専用の口座は閉鎖いたしました。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。



# 身近な自然で遊ぼう

— 幼児を対象とした自然体験の場づくり —

## 自然で遊ぶ機会が少ない

西淀川区には大野川緑陰道路をはじめ、淀川や矢倉海岸などの自然が見られます。しかし「区内に住む」子どもたちが自然にふれて遊ぶ機会が少ないという声をベテラン保育士から聞きました。子ども時代の自然や外遊びの経験が少ない若い世代が親や幼稚園教諭・保育士となり、野外・自然での遊びを子どもたちに十分に伝えられないといえます。さらに区外からきた人が多く、西淀川区にある身近な自然についてあまり知らないようです。

どり保育園と協働で、子どもが身近な自然で遊ぶ場として4〜5歳の子どもを対象に自然体験会を3回実施しました。また体験会の様子や、活動の内容を保護者や保育士に知ってもらうためにニュースレターを発行しました。

自然体験会はプログラムを組んで実施していますが、プログラムの遊びを發展させて、自分たちで新しい遊びを考えて遊ぶ子どもの姿も見られました。子どもが地域の自然に興味を持ち、緑陰道路や公園の自然の中から新しい発見に感動する、そんな光景がたくさん見られるようになればと思います。 **相**

## 自然体験会のプログラム

<b>第1回「みちくさであそぼう」</b> 日時:2013年10月23日 10時~11時 場所:みどり保育園(雨天により屋内で実施)	1 葉っぱに絵を描こう 2 草相撲をしよう 3 草の匂いをかいでみよう
<b>第2回「公園の自然であそぼう」</b> 日時:2013年11月20日 10時~11時 場所:西淀公園	1 木に抱きついてみよう 2 めかくしトレイル(表紙写真) 3 自然の色を探そう
<b>第3回「自然のもので作ってみよう」</b> 日時:2013年12月17日 10時~11時 場所:みどり保育園	1 クリスマスリースを作ろう

講師協力:公益財団法人大阪自然環境保全協会

## 自然体験会の開催

大野川緑陰道路や区内の中心部に位置する西淀公園を主なフィールドとして、子どもたちが自然で遊び、親しむ体験会を実施しています。天気の悪い日や寒い時期には、保育園の園内で自然のものを使った工作や、区内に生えている草を使った遊びを体験します。



葉っぱ(セイヨウバクチノキ)に、みんなでお絵かき 初体験



色紙と同じ色を探し、自然にもいろんな色があることに気づきます



西淀公園



草相撲をして遊ぼう!

## みどり保育園園長 三宅直美さん

普段見過ごしている身近な自然の色、感触を、直接体験することを通じて気づき、興味関心を持つ子どもが増えてほしいです。そして親を公園に誘って、遊びに行ってもらいたいですね。活動を通じて、親にも身近な自然について知ってもらい、西淀川のことについて知ってもらいたいと思っています。

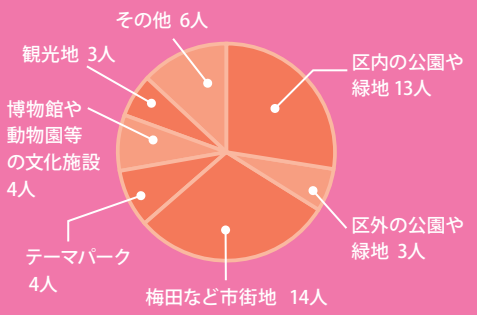


## アンケート

みどり保育園の保護者  
(2013年8月実施 回答26名)

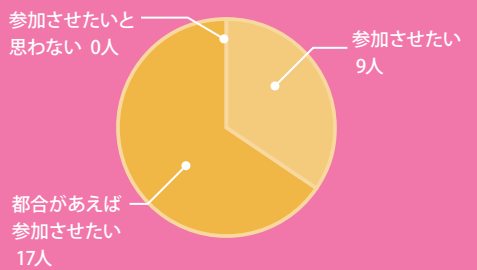
### 親も、子どもに自然体験をさせたい

#### 休みの日に子どもを連れて遊びに行く主な場所はどこですか? (複数回答可)



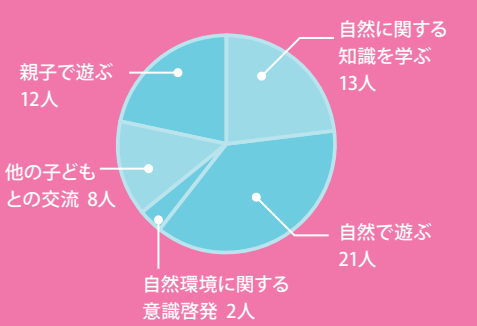
市街地と区内の公園や緑地がほぼ同数です。アクセスのよさもあり、市街地にでかける人も多いようです。

#### 区内で自然を体験するイベントがあったら、子どもを参加させたいと思いますか?



自然体験の場を作ることで、身近な自然に出かける親子が増えてほしいと思います。

#### どんなことを子どもに体験させたいですか? (複数回答可)



自然に触れて、遊ばせたいという親が多いようです。

この事業は平成25年度高原環境財団助成事業によるものです。



木ってどんな感じが?抱きついて感じてみよう!





# 「森のようちえん」の紹介

岐阜大学教育学部准教授  
**今村 光章**

特集  
子どもと環境学習



カーゴネットで遊ぶ子どもたち

「森のようちえん」とは、年間を通して自然の中で過ごす保育のスタイルのことです。1980年代ごろに、デンマークで一人の母親が始めた活動だと言われています。その後、ドイツや北欧を中心に急速に広まり、現在、それらの国々では「森のようちえん」が広く市民権を得ています。

**日本の「森のようちえん」の概況**

日本では、2005年に、第1回の森のようちえん全国交流フォーラムが開かれました。各地で「森のようちえん」活動を行なっている団体が集まり、さらなる発展・普及のための情報交換などが実施されています。そうしたフォーラムの情報によれば、日本でも約100園もの「森のようちえん」があり、幼児期の環境教育を意識した活動がどんどん増加しています。それ以外にも森に出かけてい

く幼稚園は多々あります。ただし、森の幼稚園のスタイルはさまざまです。園舎を持ち、毎日のように森に出かけていく幼稚園もあれば、園舎を持たずに自主保育のような形式で指導者があちらこちらに子どもたちを連れて行く形式もあります。1月のうち何度か行事として「森のようちえん」活動を取り入れていられる幼稚園もあれば、週末に、園児を集めて森のようちえん活動を行っている場合も



たき火パン(野外料理)

岐阜でも「行事型森のようちえん」活動を始めました  
私は、自分自身が奈良の吉野の山奥で育ちました。ですから、幼



へびを触る子ども

自然のなかでは、子どもたちばかりではなく、オトナたちも違った顔を見せます。森のニオイがそうさせるのでしょうか？あふれる木々の木漏れ日からさらさらと太陽光に光る土を見て、視覚的に別世界へと誘われるのでしょうか。森の持つ独特の雰囲気がいわば森の「森療時間(診療時間)」を私たちに与えてくれます。癒されるという実感があります。その楽しさは、言葉で伝え切れませんが、体験を分かち合うことよってのみ伝達ができるでしょう。

頃から子ども達にも自然と触れ合わせ、自然の中で、とくに森の中のびのびゆつくりと遊ぶ経験をしたいと願い、岐阜市で「行事型の森のようちえん」を企画・運営しています。

三田洞の「ながら川ふれあいの森」という素敵な森のなかで1か月に1、2回程度、土日または祝日に活動を行っています。幼児と保護者と共に森に出かけ、自然遊びを楽しんでいます。葉っぱのにおいをかいだり、バッタを追いかけてたり、寝転んで空を見上げたり…。保護者は子ども達の遊びの仲間に加わったり、お味噌汁の炊き出しをしたり、野外料理をしたり。親子ともどもそれぞれ楽しんでいきます。



小川に寝る子ども

vol.2

## 復興まちづくりの現場 「最大の強みは現場と人の多様性」

釜援隊協議会 代表理事 **黍原 豊**

釜援隊協議会(釜石リージョナルコーディネーター)  
〒026-8686 岩手県釜石市只越町3-9-13 釜石市役所第5庁舎1階  
http://kamaentai.org/ Tel 0193-22-8600 / Fax 0193-55-6699



職歴も多様だが、年代も20代から50代までの多様な釜援隊メンバー

釜援隊10名は、市内の地域づくり団体、観光、福祉、産業振興、仮設コミュニティ支援など多様な現場に派遣され、残り4名は事務局で組織経営や市内外連携に携わっています。毎週ミーティングでは、各分野の状況を把握でき、新たな視点が見られます。実

際、三陸ひとつなぎ自然学校の子ども居場所づくりが今後の被災地におけるコミュニティ形成につながることに気付かされました。

また、釜援隊の前職も様々で商社の営業や広告代理店、銀行員など。まちづくりのテーマは多岐にわたるので、各経験が生きます。釜援隊で独自に「釜石からの手紙プロジェクト」が立ち上がり、それぞれの強みを活かして、デザインとのやり取りや市役所や郵便局との調整、クラウドファンディングなど、役割分担しながら進めています。

このような現場と人の多様性が生み出す釜援隊の取り組みは、復興という枠を越えて今後必要とされる地域課題解決の一つのモデルにつながると感じます。

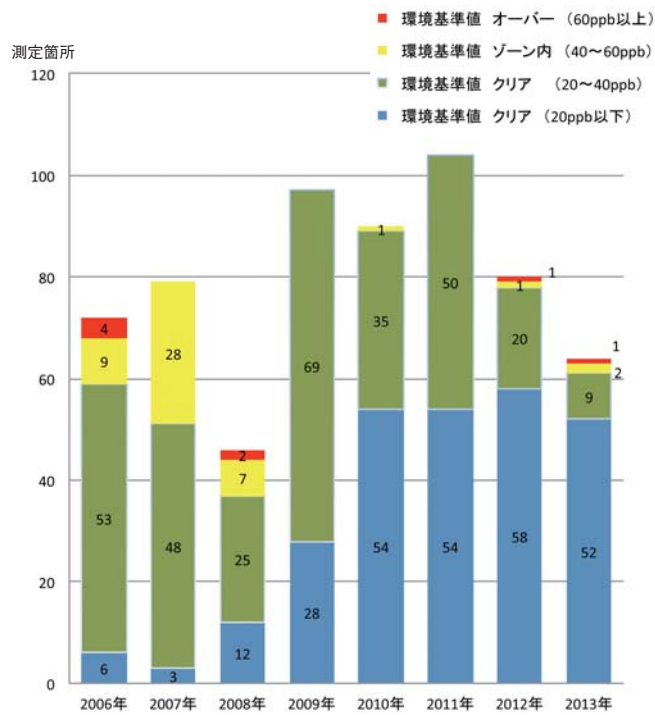


# 空気のごれを調べてみよう!

車の排出ガスに多い『二酸化ちっ素(NO<sub>2</sub>)』は目に見えず臭いもない大気汚染物質です。24時間カプセルを取付けるだけでその場所のNO<sub>2</sub>濃度を簡単に調べることができるので、カプセル調査は地域の現状を知る手段として、公害をなくすための住民運動の中で使われてきました。幹線道路が複数通る大阪市西淀川区の空気のごれはどのようなのでしょうか。あおぞら財団では大気汚染防止月間の12月に、小学生を対象に『空気のごれを調べてみよう!』というNO<sub>2</sub>測定イベントをしています。参加する小学生は公園や道路等、調べてみたいと思う場所に測定用カプセルを設置。西淀川区を中心に毎年50~100箇所を調べています。空気がきれいな順に「青」「緑」「黄色」「赤」の色でわけたシールを地図にはり、結果をみんなで確かめます。自分で調べることを通じて、まちを良くしたいという気持ちと行動を育てていきたいですね。📍

## 年ごとの結果

『青』が年々増えてきれいになっていますが、環境基準値ゾーン内より大きい『赤』『黄』も残っています。どこをわかって『青』をめざしたいですね。



## 2013年も調べました

12月26日にエルモ西淀川で測定イベントを開催。87人が参加。



調べた結果をまとめた地図



## NO<sub>2</sub>(二酸化ちっ素) しらべ方

専用のカプセルを家の壁などに24時間はりつけます。試薬をいれて濃度ははかります。



感想をかき子どもたち (佃小4年)



国土交通省の辻脇崇さん(近畿地方整備局大阪国道事務所地域調整課長)が沿道の大気汚染対策等を説明

車は「ガソリン」や「エンジン」を使っているから、空気が汚れるのでエコ車にしてほしいです。(歌島小6年)

空気のごれをすこしずつなくしてぜんそくでなくなる人を少なくしたい。(佃小4年)



# 親子で楽しむ淀川のハゼ釣り

釣ったハゼは天ぷらに

2013年10月19日  
場所:淀川(花川地区の河川敷)  
参加者120名  
主催:淀川親子・ハゼ釣り大会実行委員会

西淀川で楽しく安全に自然体験ができる場をつくろうと「西淀川親子・ハゼ釣り大会」を開催。前夜に雨が降りハゼ釣りには難しい条件の中、16匹の魚が釣れました。淀川的环境や漁師さんの話、ゴミ拾い、淀川の魚の試食も。さてどんな思い出ができたかな。📍

ハゼ釣り大会、大成功でした。参加者、スタッフの皆さんの楽しい笑顔がとても良かったです。実行委員会のメンバー一人ひとりが積極的で、前向きなご意見・アイデアには、本当に頭が下がりました。表彰式の後に食べた、ハゼやチヌの天ぷら、唐揚げは、大好評でした。事前に参加者全員の分を用意していただいた矢倉釣りクラブ、大阪市漁協のみなさんに感謝です。すべてのスタッフの皆さん、ありがとう。来年もハゼ釣り大会やりましょう。

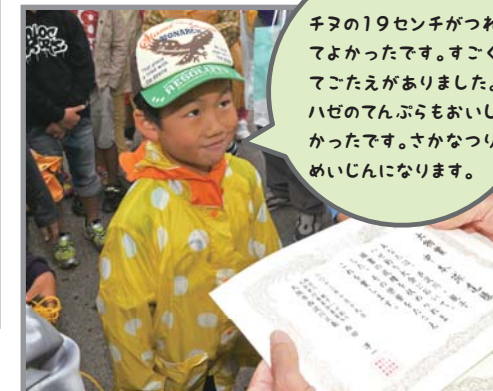
西淀川区役所 地域活動支援G担当 萩山克彰さん



手遊びで参加者の心をほぐす萩山さん



15.5cmのハゼを釣り優勝した北村武則君。お父さんは漁師さんです。さすがですね。



大物賞をとった中本球道君(姫里小1年)



準優勝と大物賞のダブル受賞の児島永健君(よどっこ保育園)親子

初めての魚釣りでした。実はアレルギーもあり魚が食べられないので、魚に触れることで身近になったと思います。生物にふれる経験もなかなかないので参加して良かったです。(父:児島賢一さん)

チヌの19センチがつれてよかったです。すごくごたえがありました。ハゼのてんぷらもおいしかったです。さかなつりめいじんになります。

あおぞら財団では、2007年より「淀川親子ハゼ釣り大会」を主催してきました。財団が事務局をする緑陰道路サロンや子どもの参画ばんきょう会の皆さんと企画・運営していましたが、今回は西淀川区役所や大阪市漁業協同組合、大阪市生涯学習西淀川区連絡会、矢倉釣りクラブのみなさんと実行委員会形式で実施しました。拡がった輪をさらに拡げていきたいですね。

写真はオフィス岩波 藤井克己さんの提供です。HP:ふーちゃんの写真室 <http://www.eonet.net.jp/~fu-sanrockwave/>



# 御幣島芸術祭

## みてアート2013

### 新しい西淀川を感じてみよう!

街のあちこちに絵が有って、色々な催しもあって楽しかったです

公式ホームページ: <http://miteart.blogspot.jp/>  
 フェイスブック: <https://www.facebook.com/miteart>  
 ツイッター: <https://www.facebook.com/miteart>

地域でこんなふう  
に丁寧に人とな  
がれるイベントが  
あると知ってとて  
もうれいす

西淀川区初!? アートイベントをJR東西線「御幣島(みてじま)」駅周辺で12月21(土)と22日(日)に開催しました。ぶらりと見てまわって、西淀川区の魅力を体感してもらおうと、5つの会場とそれをつなぐストリートでアート展示やスタンプラリー、ワークショップ、音楽ライブ、クラフト教室などをおこないました。

両日で各会場の来場者累計は341人でした。西淀川区の住民も、そうでない人も、アートの魅力と可能性を感じる人たちが、「まずは、やってみよう!」とスタートし、おかげさまで多くの人たちの協力によって、実施することができました。



カマタ商店

ニシヨド人によるアート展示は、驚きの「覗き部屋」でした。参加アーティスト、出展者=ニシヨド女子、鎌田安彦



あおぞらイコバ



姫里ゲストハウス



マルモット駅

子どもたちが遊ぶ、フェイスペインティングやクラフト、ライブで盛り上がりました。参加アーティスト、出展者=オエカキハルヨ、たかはしなな



歌島橋交差点

歌島橋交差点に周辺に位置する銀行のショーウィンドウ、国道2号沿いの美容院や郵便局、塗料店、ガラス屋さん、個人のお宅などの窓ガラス面に、お散歩しながら歩いて見てまわれるアート展示をおこないました。「YELLOW」、「アトリエユウの家」の作品を展示し、いつもの通りが、アートによって、違った空間をつくりだしていました。

海外からのアート作品などで、大人の雰囲気  
参加アーティスト、出展者=ル・モリ、ディミトリ、ハガー、メガメッシュプロダクション、パンダアンドスシ、ハンヌ・ヴァイサン

●主催: 西淀川から住まいと暮らしを考える環境住宅研究会(Green) ●企画運営: みてアート実行委員会 ●事務局: あおぞら財団  
 ●協賛: スモカ歯磨株式会社、リそな銀行、三菱東京UFJ銀行 ●写真撮影: 須藤政善さん ●チラシ・パンフレットデザイン: 須藤彩さん



## 廃油キャンドルナイト

### in NY(にしよどがわ)開催

2013年12月22日(日)

大野川緑陰道路・あおぞらイコバ  
 主催: エコでつながる西淀川推進協議会  
 (事務局: あおぞら財団)

西淀川区内では、地域や学校、企業が参加するエコでつながる西淀川推進協議会が廃油回収の活動を進めています。活動の輪をさらに広げていくために、回収した廃食油をリサイクルして作った廃油キャンドルで緑陰道路を彩る「廃油キャンドルナイト in NY」を企画、開催しました。当日は約400人の来場者があり、緑陰道路に並べられたキャンドルを眺め、クイズラリーなどの企画を楽しみました。クリスマスのイルミネーションもいいですが、小さく灯ったキャンドルを見に、地域の人が緑陰道路を訪れ、環境について考えたり、廃油回収について少しでも知ってもらえるようなイベントになればと思います。(相)

- 【出展・ボランティア協力団体(順不同)】
- 佃連合振興町会環境衛生部
  - 浜田化学株式会社
  - NPO西淀川子どもセンター
  - ガールスカウト大阪府第26団
  - ECOまちネットワーク・よどがわ
  - 修成建設専門学校
  - 大阪府立西淀川高校エココミュニケーション部
  - 大阪府立佐野高校ユネスコ部
  - 大阪経済大学柏原ゼミ
  - 佃コーポ有志
  - 廃油キャンドルナイトin NY(大学生チーム) 他

人とつながることの素晴らしさを感じさせてくれる、とても温かいイベントです。いろんな世代の方と関わられたことは本当に貴重な経験となりました。楽しみながら環境について触れられるこのイベントが、もっとたくさんの人に知られ、西淀川の名物になればいいなと思います。

代表 浦部聡史さん(大阪経済大学4回生)



## 2500個の廃油キャンドルが緑陰道路を灯す!

大野川緑陰道路では、足踏み広場から中島大水道の碑までの約400メートルにキャンドルを並べ、キャンドルの回廊ができました。途中4団体が、キャンドルアートを出展し、それぞれが活動をアピールしました。



西淀川子どもセンター  
オレンジリボンで児童虐待防止をアピール



ガールスカウト大阪府第26団  
シンボルマークで活動をアピール



浜田化学  
一斗缶ピラミッドで迫力満点のキャンドル



ECOまちネットワークよどがわ  
大阪市初の太陽光市民共同発電所  
ECOまち・さわやか発電所のアピール



足踏み広場では、100個のキャンドルで小さなまちが作られました



イコバでは佃に住む湯川さんがバルーンアートを子どもたちにプレゼント



キャンドルの回廊



ミニライブや被災地ツアーの報告も



動物のシルエット



キャンドルの回廊





従業員さん達と映っている写真は元旦の分厚い新聞配達を終えた従業員さん達と慰労会。高齢者が社会を支えてくれています。

# 忙中筆

新聞を配るだけでなく、町の人とのコミュニケーションを大切にしたい環境住宅、みてアート、タンDEM自転車など、あおぞら財団の活動ではおなじみの「町の新聞屋さん」多田修さんのエッセイです。



多田 修 (ただ おさむ)

毎日新聞西淀川販売所所長(株)マルモット代表取締役。16年前に千船店を引継いで以来、西淀川区に元々5店あった毎日新聞販売店を今年から統一。新聞配達中継点として姫里2丁目2号線沿いにマルモットステーションを設置し、業務以外の空き時間をイベントなどのフリースペースとして活用募集中。

ブログ:うめのゆず  
http://ameblo.jp/marmotmarmot/

## 怒りの電話

数年前のある日、「明日から新聞止めろ!」とかなりご立腹な電話が入り慌ててお客さん宅へ訪問しました。呼び鈴を鳴らして出てきたのは、70過ぎのご老人山本さん(仮名)。「お前か経営者は?」

まあ上げれ「団地の一室、畳の間」とはいえ、固くて冷たい床に座らせられました。室内はガランとして家具ひとつありません。山本さんも腰を下ろすなりかなりの剣幕でまくし立てました。理由は集金人との言葉のやり取りでの誤解。

山本さんは興奮状態でこちらの話を聞く余地がないので、とりあえず相手の言い分をしばらく黙って聞けると次第に興奮が和らいできたのか「昔は良かった:」など自身の半生を語り出しました。「ワシは若い頃に仕事で西淀川区にきてな。もうかれこれ40年や。その当時はよう儲かったわ:」と先程まで鬼の形相が一転、目を細めて懐かしむように穏やかに話したし、「へえそうですか!いいぞ、怒りが収まってきたと相槌をとると話しは次第に昔話から自慢話になり「昔は女にモテてなあ:」と山本さんの顔はデレデレに。(よしよしノッてき

た!)「今でもコレがおつてな。」とおもむろに小指を立て「たまにウチ来てワシの面倒みてくれるねん!」(それってヘルパーでしょ?)「ところが最近来んようになってしまった。」(怒らしたのでは?)「見てみいこの部屋!何もないやろ」(デレデレ顔が一転、肩を落とす山本さん「最近身体も不自由やし一日中部屋の中でワシほんまは一人ぼっちやねん:」ワシほんまは寂しいねん:」(孤立した独居老人の本音を聞き、何とも切なくなりました。

## 毎日朝夕、新聞を届ける中で

このような年金で一人暮らしの高齢者に無理に新聞を購読させているのかもしれないと思うと、自分自身が恥ずかしくなり、「明日から新聞は止めておきます。す

みませんでした」と切り出すと「いや、新聞は止めんでもええ!」その代りあなたが毎月集金にきて来てやと快く和解して下さって、それから私は毎月集金にお伺いしました。2年後、徐々に会いにくくなり、新聞も溜りがちになり、ある日大家さんから山本さんが亡くなられたとの一報が入りました。

休憩場所の毛馬の閘門です。明治時代の水路や水門を見学します。



淀川河川敷は、梅田の高層ビル群を眺めながら走れる気持ちのいいコースです。

onogawaryokuindoro

## CMA子ども自転車教室2013 大阪城まで 自転車でいこう!

11月4日(月・祝)に、子ども自転車教室を、一般社団法人コミュニティマネジメント協会(CMA)主催(協力:あおぞら財団)で開催しました。参加したのは、小学校3~6年生の16人の子ども達。大人スタッフも一緒に併走します。

この教室は子どもに自転車の楽しさを知り、走行ルールを習得してもらおうという試みです。今回はあおぞら財団近くの大野川緑陰道路から大阪城まで往復約30kmのコースを自転車で走ってみようというもの。

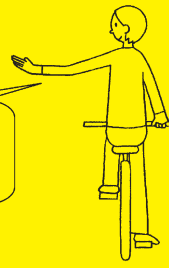
午前9:30に足ツボ広場前に集合し、まずは、自転車のメンテナンス教室です。ブレーキはきちんと動く?、タイヤに空気がきちんと入っているか?、サドルの高さは?、チェーンに油もさしましょう!といった簡単なチェックをしました。こういった簡単な作業なら子どもたちでもできますし、自分の自転車を触ることで愛着も持ってくれば良いと思います。

ついで、自転車の走行ルールを勉強します。自転車は、クルマの仲間

### 左折するとき

まがりまーす!!

左側後方をよく確認してから、左手をまっすぐのばす



間で、車道の左側走行が原則で、歩道では歩行者優先、一列になって走ることなどを伝えます。そしてハンドサインの練習です。自転車にはクルマのように指示器がついていないので、手で後方にサインを出します。リーダーをまねて、止まる、右折、左折のサインの練習をしました。準備運動をして、ヘルメットをかぶって、班に分かれて、出発〜

大川沿いを30分ほど走るとようやく大阪城。天守閣が見えたときは嬉しくなります。とりあえず、みんなでお弁当。その後、雨が...



雨もやんで、帰り道も大川沿いを一列になって快走。



「大阪ふれあいの水辺」に寄りました。砂浜であそぶうちに雨で冷えた体が温まったのか子どもたちも元気になりました。



参加者のお母さん

今日は娘がお世話になり、ありがとうございました!! 凄くいい顔(\*^^\*)で帰ってきました♪ 来年も行く!!そうです(^^)

全員無事に、解散場所のあおぞら財団に到着して、修了証を貰って、集合写真。疲れたけど達成感の方が大きかったかなと思います。みんないい顔をしています。



主催:一般社団法人コミュニティマネジメント協会(CMA)  
http://www.cma-web.net/  
協力:あおぞら財団



# 西淀川記憶あつめ隊

Vol.8

西淀川には川や海の水面よりも低い所があるため、何回となく水害に苦しめられてきました。今回は、ジェーン台風第二室戸台風の2つの台風についてのお話です。



平木福男さん、寿美子さん

平木 福男さん  
寿美子さん

2013年12月26日  
聞き取り

## ◆2つの水害に遭遇

平木福男さんは81歳、寿美子さん75歳、野里在住のご夫婦です。福男さんは1950(昭和25)年のジェーン台風、1961(昭和36)年の第二室戸台風の2つの台風で被害に遭遇しています。ジェーン台風の襲来当時、福男

## ◆命から逃げた第二室戸台風

その後、大和田に引っ越した福男さんは、またもや台風の被害にあいました。第二室戸台風の襲来当時、福男さんは29歳、奥様の寿美子さんと結婚し、1歳半と6か月の子供が二人、両親、

妹と一緒に住んでいました。第二室戸台風が大阪に襲来した9月16日には、福男さんは会社を休み、家の中で台風に備えていたそうです。近所の人たちは早めに大和田小学校に避難していましたが、「下の子が小さくて」「避難所に抵抗があったそうです。」

お昼頃、福男さんが外に様子を見に行くと、近所の人が「水が来たぞー」と叫んでいました。そこで、着の身着のまま家族みんなで逃げだしました。水と一緒に、電柱の建替えのために道路におかれていた杉の木が、平木さん家族を追いかけました。どうやって逃げたのか思い出せないほど、命からがら、福島女子高等学校(現好文学園女



大和田町付近の洪水の様子『西淀川今昔写真集』より

子高等学校)に避難しました。学校で一晩過ごした後、奥様の寿美子さんと子供たちは神戸にいるお姉さん宅に身を寄せ、残された福男さんたちは学校で1週間ほど過ごしました。ですが、ここは、指定の避難所ではなかったため、当初配給が届きませんでした。高校の付近に住んでいた人々が、自分達の配給を分けてくれる等親切にしてくれました。

## ◆災害の後

水がひいた後は、掃除が本当に大変だったそうです。ほとんどのものに泥がついて汚れてしまっていました。使えるものはできるだけ洗って使ったそうです。「子どもたちが小さかったから、床に石灰を撒いて早くに畳を入れてしまったら、畳が腐ってしまった」と悔しそうに仰っていました。衛生状態は非常に悪

## 【ジェーン台風】

1950(昭和25)年に大阪を襲った台風。強風、高潮の発生、淀川右岸堤防の一部の決壊により、西淀川区内で全半壊流失8,786戸、死者・行方不明58人を出し、排水には2週間以上を要しました。

## 【第二室戸台風による西淀川の被害】

昭和36(1961)年に大阪を襲った台風。神崎川が氾濫して、大和田、出来島、御幣島では家屋のほとんどが床上浸水の被害を受けました。

災害のお話を聞かせていただける方は、お気軽におおぞら財団(06-6475-8885)までご連絡ください。

かったようですが、「集団感染病にもならなかったのはよかった」とのことです。こうした水害の体験について子どもたちにも詳しく話していないそうです。「嫌な汚い思い出なので、忘れたいと思ってしまう。その頃は前進あるのみで後ろを振り向いている暇はなかった」とのこと。西淀川の人々の我慢づよさ、前向きさを感じるとともに、今、記録していかないと貴重な体験が後世に伝わらずに失われてしまうという焦燥感も感じました。

谷内久美子  
(日本学術振興会特別研究員)

\*この活動は公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成でおこなっています。

# ぶらりとゆるりと 西淀川めぐり

地元で聞く大和田の店

(イラスト:とりやまひろこ)

優しさが  
にじみ出るマスターは  
気配り上手



夕(ゆう)

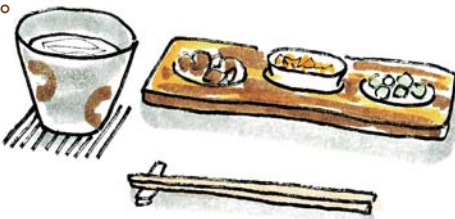
美味しいお酒と粋な会話にカラオケも楽しめる店。2013年3月にオープンしたばかりですが、取材当日も常連さん達が集まり自慢ののどを披露していました。大人の落ち着きがある、初めての人にも居心地の良いお店です。

をご紹介します。

「紹介してほしい店があるんや。」と、公害病の語り部、岡崎久女さんの声を受け向かったお店は、地域を大切にしている店主のお店でした。大和田地区の地元の人に愛される2店



ナポリタン580円



セット内容は、昼はソフトドリンク2杯とお菓子、夜はワンドリンクにおつまみ2品に選べる小鉢が1品。歌い放題で1200円。飲み物オール380円。

所 西淀川区大和田5-4-3

休 月曜日

営 11:00~13:30、18:00~24:00

(2014年は、ランチは3月から営業)

☎ 06-6474-5111

所 西淀川区大和田6-4-2

休 月曜日、第3火曜日

営 13:00~17:00(木曜・日曜のみ)、

19:00~23:00(カラオケは22:30まで)

☎ 06-6472-1264

明るく気さくな  
西淀育ちの  
ママさんが切り盛り

居酒屋 あんばらんす

ランチが390円。メイン1品に野菜の小鉢が2品ついて栄養バランスもばっちり。人気はナポリタン。麺の下には半熟の目玉焼きが隠れています。鉄板の上で麺に絡め、アツアツをどうぞ。こだわりが味にも反映している家庭料理のお店です。



ランチ390円

## 第2回 町工場の夕日 ~御幣島のひなやん編~

今から50年以上も前、当時子育て中のわたしの母は、父の経営する工場に就職して寮に住みこむ若い工員さんたちのお世話も大変だったらしく、父はそんな「妻の激しいストレス」軽減のためか、夕食後と休日は娘の手を引いて家から脱出し「お父ちゃんは散歩のせーんせ(先生)」などロザミながら外歩きをするのが日課だった。1368(イチサンロッパチ、この数字の付く日はどこか

で夜店があった時代)のワクワクもあり、本屋で(母には内緒の)マンガ、お菓子屋で量り売り、商店街のお店でミックスジュース、がコース。行く先々で交わされる地域の大人同士の挨拶や立ち話にも、地面に絵を描いたりして付き合った。

交通手段の不便な地域ゆえ、家から塚本駅までは徒歩30分ほど、道傍の化学工場の廃液臭に鼻をつまみつつ、子どもながらテクテクよく歩いたものよと思う。当時よく乗った国道2号線の路面電車、淀川大橋上で見る山の向こうへ沈む夕日。雲や町や川をゆっくりと染めていく夕焼けは、それなりに美しかった。

西川 日奈子(NPO法人西淀川子どもセンター代表)





## ありがとうございます

(2013年9月～2013年11月 敬称略・順不同)

### ●入会

西谷 祐亮  
庭野 理知子  
大野 智彦

### ●寄附・寄贈者

天野 憲一郎  
池田 理知子  
白戸 溪子  
谷内 久美子  
熊本学園水俣学術センター  
藤本 典昭  
藤原 幸三郎  
宮本 由貴  
牧 洋子  
矢作 正  
逢坂 隆子  
伊藤 卓次  
植村 和弘  
藤江 めぐみ  
山本 康子  
コミュニティマネジメント協会

### ●お助けボランティア

大久保 舞  
大野 みさ子  
岡崎 久女  
寺田 峰友  
平瀬 雅人  
宮本 由貴  
山下 晴美

## ● 緑道散歩

昔から水害には悩まされた西淀川区。現在、地下では全長22.5km、幅は最大で7.5mの『淀の大放水路』を建設中。大野川緑陰道路内(西淀公園前)でも一部を使って工事が行われていましたが、フェンスが外され緑道としての復帰に向けた準備に入っていました。大野川緑陰道路は大野川と中島大水道という排水路を埋立てできましたが、今は地下に大きな放水路を作るのですね。



## りべら No.131 2014年2月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)  
編集人:小平 智子  
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階  
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885  
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp

デザイン:(株)パード・デザインハウス  
定価:一部400円(郵送料込)  
会員の購読料は会費に含まれています。  
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



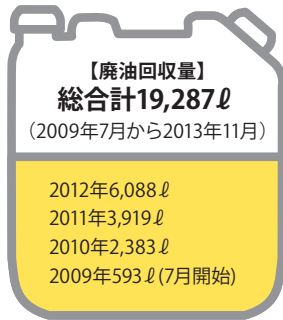
## ● 読者の声

ECOまちネットワーク・よどがわ運営委員  
神原 光子さん

あおぞら財団を初めて知ったのは、職員をしていたよどがわ市民生協で、フードマイレージのワークショップをお願いしたことがきっかけです。ECOまちネットワーク・よどがわ(大阪経済大学事務局)の編集委員として、西淀川公害患者と家族の会を取材したとき、西淀川大気汚染公害の話を書き、とてもショックでした。娘がアトピーだったので食物には気をつけていましたが、環境や公害問題にも興味をもつようになりました。ドキュメント映画『命で なんぼなん?—泉南アスベスト禍を闘う』を財団での上映会で見たこともあり、泉南アスベスト国家賠償訴訟の二次高裁判決で、原告側の勝利(2013.12)をニュースで知った時は本当に嬉しかったです。

## ● 西淀川菜の花プロジェクト

～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外53箇所で、廃油を回収しています。回収団体募集中。詳しくはあおぞら財団まで。



西淀川菜の花プロジェクトブログ <http://nanohanany.blogspot.jp/>

## ● 読者の声募集

読者のみなさまの日ごとの活動や、アピールしたい事、またはあおぞら財団へのご意見や、リべらのご感想、あふれる西淀川愛など、多種多様な原稿を寄せていただければと思います。文字数は200字です。原稿は、表題を「読者の声投稿」としてE-mail(webmaster@aozora.or.jp)またはFAX(06-6478-5885)でお送りください。皆さまのご参加をお待ちしております。

## ● スタッフツイッター 編集後記

私は群馬出身。群馬の小学生は「上毛カルタ」で故郷の名所や誇りを覚えます(大会も有)。今も全ての札を言えます(左マークも読札の「鶴舞う形の群馬県」より)。群馬のゆるキャラは馬。その名も「ぐんまちゃん」。30年も前に誕生、現在二代目。そこのキャラとは歴史が違う。故郷の自慢が続きますが今年は馬年、ご愛嬌を。ウマく1年を駆け抜けたいです。

広告

### ディサービスセンター

# あおぞら苑





あおぞら御膳

あおぞらの湯

**【お問い合わせ】**  
TEL: 06-6475-0111 FAX: 06-6475-0114  
URL: <http://aozoraen.com/>  
運営: NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)  
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号  
開所曜日: 月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771001407)  
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号  
開所曜日: 月曜日～金曜日 利用人数: 1日20人

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

広告

# 油は捨てずにリサイクル!!!

## TEL 06-6411-3457

### 浜田化学株式会社



いつも、ご協力有難うございます。

## 〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

より多くの方に「リべら」を知っていただくために、発行部数増にご協力ください。

「リべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える会員紙として、これまで年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。紙面上では、大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思っております。今回、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数を増やしたいと考えております(1500部→3000部)。そのための印刷資金として、あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、本「リべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。どうぞ、ご協力お願いします。



**【リべら広告掲載費】**  
中面1/3頁: 3万円/回  
中面全面: 9万円/回  
お問合せ先: あおぞら財団まで